

令和7年度 第1回津島市民病院経営評価委員会 報告書

1. 会議概要

- ・ 日時: 9 月 22 日(月) 14:30～15:45
 - ・ 場所: 講義室
 - ・ 会議名: 令和7年度 第1回津島市民病院経営評価委員会
-

2. 病院経営の評価と今後の課題

(1) 収支改善の実績

- 診療報酬は 0.8%の微増にとどまる一方、人件費(給与 5%増)や光熱費が上昇の中、他病院は赤字拡大したが、津島市民病院は 医業収益 6 億円あまりの増加の結果。厳しい環境下で、経営改善を実現し、純損益 1.7 億円の改善は大きな評価に値する。
- 救急搬送受入件数、救急入院、手術件数は前年(R5)を上回り、地域医療への貢献が明確である。

(2) 超高齢化への対応

- 患者層は従来の 65 歳以上から、近年では 80 歳以上の超高齢者が増加することから、今後の病院経営における大きな課題である。
-

3. 経費削減と業務改善

(1) 調達改革

- 医療機器について購入からメンテナンスまでの共同調達を検討されたい。

(2) 職員意識改革

- 未使用機器の電源オフ徹底(例えば、外来で医師到着後に電子カルテ電源を入れる運用など)など経費節減に対する意識を全体に浸透されたい。
-

4. 患者対応・満足度

患者満足度の低下

- 給食の質への不満、稼働率上昇に伴う看護師の対応不足など、患者満足度低下につながることに注意されたい。また、相談件数が増えるにつれ、人件費が増加するため、効率的な運用方法を検討されたい。

5. 医療提供体制

(1)訪問看護

- 。全国的に不適正請求が問題化しており、過度な医療提供とならないよう請求の透明化に注意されたい。

(2)麻酔科医体制

- 。麻酔科医不足は全国的課題であり、外部委託もコスト高となる。現状のまま常勤 3 名体制の安定維持はされたい。
-

6. 組織運営と人材育成

(1)事務職員異動

- 。本庁事務職員では 3 年の異動が一般的だが、当院は 5～10 年の在職者が多く、事務処理の安定性がある。

(2)医師事務作業補助者(MA)

- 。23 名体制を維持しており、他院より高い水準である。紹介状の作成など AI 活用の可能性はあるものの、人材教育も優先されたい。

(3)医師の働き方

- 。全医師の時間外勤務時間は「A 水準」で維持しており、労務超過を防止されている。

(4)研修医教育

- 。毎年 7 名を受け入れ、うち数名が常勤としてそのまま残留されている。研修医確保と定着が病院の将来に直結するため、十分に力をいれていただきたい。
-

7.総括

津島市民病院は、診療報酬の伸び悩みとコスト増という厳しい環境下で、経営改善を実現した数少ない公立病院である。救急受入数及び手術件数の増加により地域医療への貢献度も高く評価できる。一方で、患者満足度の低下、人材確保・育成、医師の働き方改革など、今後の課題も浮き彫りであるため、対応をお願いしたい。